

設立趣旨

ふたご・みごつなどの多胎児を妊娠・出産・育児する家庭は、極めて厳しい状況に追い込まれています。多胎児の妊娠・出産は、単胎と比べてさまざまな点でリスクが高いうえ、同じ年齢の複数児を同時に育てるという困難さがあります。また、多胎に必要なかケアや指導、あるいは情報やサポートが与えられていない場合は、虐待等の深刻な事態に陥るケースもあります。

こうした多胎をとりまく状況を改善し、地域社会の福祉の向上に寄与することを目的として、平成22年2月22日(2が5つ連なる日=ツインズデー)に当事者・専門職・研究者が理事となつて発足したのが「一般社団法人日本多胎支援協会」です。

私たちのめざす社会

「多胎家庭にやさしい社会は、すべての人にやさしい」

私たちは、その実現を目指しています。

多胎家庭の支援は、保健・医療・福祉・保育・教育、子育て支援、行政などの地域の様々な社会資源との連携によって、より幅広くきめ細やかな活動が可能となります。

日本多胎支援協会は、日本中どこでも多胎児を安心して産み育てることができる社会の実現をめざして、多胎支援の輪を広げていきます。

私たちの活動

私たちは、当事者・研究職・行政機関・医療機関・社会福祉機関・市民グループなどが共に学びあい、包括的な支援を実現するために、以下の活動を行います。

調査及び研究

研究者と共同で、多胎育児や多胎育児支援に関する全国調査や研究をしています。

- 多胎妊娠や育児のニーズ
- 地域における支援の実態
- 周産期医療センターにおける支援の現状

情報の普及

多胎に関する知識や情報が広く普及するような研修会や講演会、情報発信、講師派遣などを行っています。

- 全国研修会の開催
- 子育て支援者向け研修会プログラムの開発、普及
- 多胎育児支援に役立つガイドラインやハンドブックの作成
- メールマガジンの発行
- ホームページによる情報発信

意見の表明

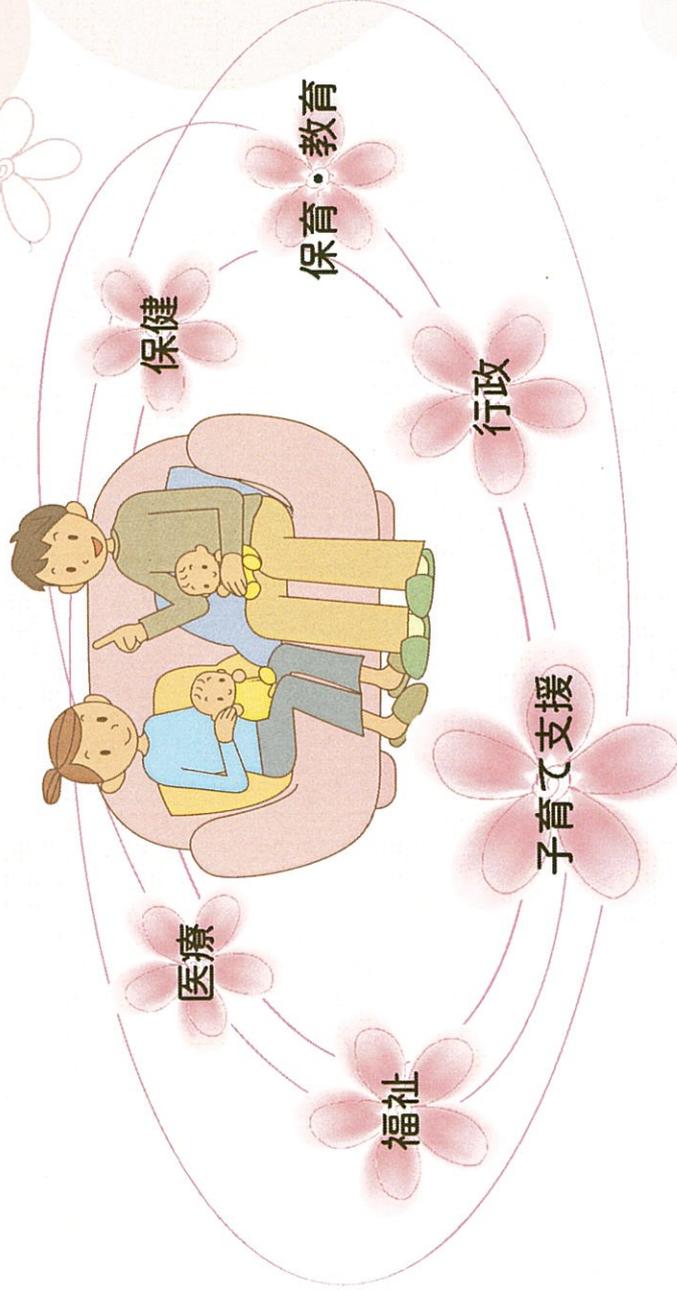
多胎家庭の福祉の向上のため、さまざまな機会を通じて意見を表明しています。

- Twin's week やツインズデーの啓発
- 学会への参加
- 「国際多胎組織協議会」(ICOMBO: International Council of Multiple Birth Organizations) への参加

活動の支援

多胎育児支援に関わる個人・サークル・子育て支援拠点などの団体、地域多胎ネット及び専門職の活動を支援しています。

- 団体の立ち上げ支援及び運営相談
- ピアサポーターやコーディネーターの養成講座



多胎の妊娠・出産・子育てに関する情報を共有し、連携して支援する